

背景・現状認識
● 少子高齢化・人口減少、単身世帯の増加
● 複雑化・複合化する生活課題、制度の狭間
● 社会的孤立・孤独、地域のつながりの希薄化
● 身寄りのない高齢者等への支援課題
● 地域活動の担い手不足・高齢化・固定化
● 権利擁護・意思決定支援の重要性の高まり

策定の方針（プロセス重視）
◆ 市・社会福祉協議会の共同作業の重視（計画の一体化）
◆ 地域福祉の新たな役割の摸索 （ 多分野協働：支援の重なり 地方創生 ：創生5との連携 ）
◆ 地域コミュニティの福祉活動の成果を踏まえる
◆ 権利擁護支援とつながる地域福祉を計画の拡がりとする
◆ ロジックモデルにより「目標－手段－施策－指標」 の関係を明確化

目指す地域の姿（上位目的）	
自分らしさ、その人らしさ、コミュニティの個性が発揮され、地域福祉が根づくまち豊岡	
横断的に重視する視点	
権利擁護支援 本人の意思の尊重/意思決定支援/権利侵害の予防・ 早期発見	包括的支援 相談・参加・地域づくりのつながり／分野横断の連 携・協働

戦略体系（5つの戦略目的）	
1 自分らしさ・その人らしさの尊厳	一人ひとりが認め合い、地域の一員として尊重されている
	●多様性を理解し学び・交流を広げる 主な手段：●偏見や排除をなくし権利を守る取組を進める ●地域活動や意思決定に当事者参加の機会を増やす

2 自分らしく・その人らしく社会に参加	誰もが自分に合う居場所・出番・役割につながっている 主な手段：●多世代・多属性の人が集える居場所を増やす ●経験・得意・特性が生かせる参加・就労の機会をつくる ●移動・情報・意識等の参加の壁を減らす ●身寄りのない高齢者に関わる諸問題に対応する ●孤立している人・孤独を感じている人を減らす ●社会とのつながりを増やして再犯防止につなげる
---------------------	---

3 多様な主体と地域コミュニティが支える地域福祉	多様な主体と地域コミュニティが協働し地域福祉が支えられている 主な手段：●地域住民・企業・学校・行政等多主体の協働を進める ●会議・協議体等のネットワークから実践につなげる ●福祉教育や多様な主体のプラットフォームから地域福祉の担い手を発掘・育成する ●ICTも活用し情報共有・評価の仕組みをつくる
--------------------------	---

4 他分野とつながる地域福祉が根づく	地域福祉が福祉内・福祉と他分野のハブになっている 主な手段：●包括的な相談とアウトリーチの方法を充実する ●相談から居場所・役割のある参加の場へつなぐ ●地域福祉をマネジメントできる地域福祉行政の体制強化 ●分野を越境し多分野の協働をコーディネートできる人材の育成
--------------------	--

5 地域コミュニティの個性が生きる地方創生へ	人口減少下の地域が地域コミュニティ重視の地域福祉によって支えられている 主な手段：●日常の声かけ・見守り・助け合いを広げる ●住民の地域活動や地域コミュニティの基盤を強める ●住民が主体的に地域課題を話し合い取組みにつなげる ●平時のつながり(防災)を災害時の支え合いにつなげる
------------------------	---

計画推進のためのリーディング・プロジェクト
権利擁護支援体制の強化 「(仮称)豊岡市権利擁護相談支援センター（中核機関）」の設置・運営（戦略目的1・2から）

多分野連携の常設化
「(仮称)豊岡市多分野連携プラットフォーム」の創設・運営（戦略目的4から）

地域の多様な主体間協働の強化
地域コミュニティ組織・労働者協働組合等との連携・協働による相談・参加・地域づくり活動の推進（（仮称)豊岡市地域の互助機能強化推進事業）（戦略目的3・5から）

本計画に包含・位置付ける個別計画
豊岡市権利擁護支援推進計画 （成年後見制度利用促進計画を包含）
豊岡市再犯防止推進計画

推進・評価の考え方
実務的な推進・進行管理を行う体制を整える(計画推進部会)
策定・推進委員会へ定期的に報告し、意見を反映
アウトカム・アウトプット指標で進捗と成果を確認

計画全体の構成（案）				
序章	第1章	第2章	第3章	第4章
計画の概要	背景と基本的な考え方	現状と課題	目指す地域の姿と戦略体系	戦略目的別の施策・取組
第5章	第6章	第7章	第8章	
権利擁護支援推進計画	再犯防止推進計画	計画推進のためのリーディング・プロジェクト	推進体制と進行管理	